

南栗遺跡 発掘たより

2024年6月28日発行

◆ 令和6年度の発掘作業が始まりました。

令和4年度に始まった発掘作業も今年度で3年目になります。

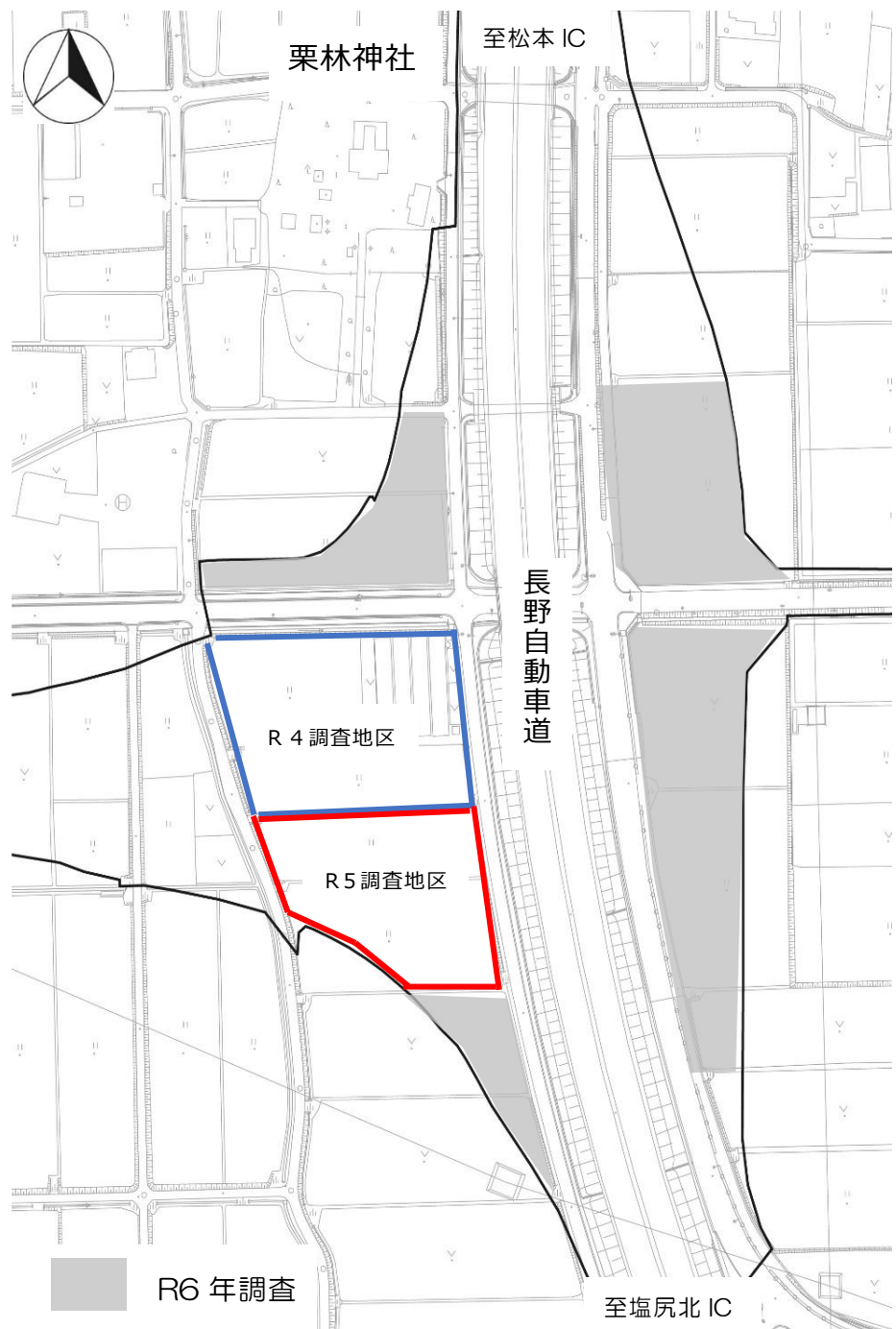
今年度の調査では、これまでにみつまっている古代集落の広がり、継続時期を把握すること、昨年度新に見つかった中世面の広がり確認されることが期待されます。

今年度の調査は11月末までを予定しております。調査期間中は大型重機などの車両が入り出します。また、調査区内には危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようお願いいたします。発掘の見学を希望する方は、事前にご連絡ください。皆様のご理解とご協力をお願いします。

◆ 昨年度の調査成果

・ 南に広がる集落

昨年度の調査では古代の竪穴建物跡16軒、掘立柱建物跡1軒、などがみつき、令和4年度に集落の南限と考えた範囲よりさらに南へと集落が広がっていることが分かりました。





令和5年度調査区全景

・焼失住居の発見

調査区の南西部でみつかった竪穴建物跡(SB39)からは、炭化した木材や焼けた土が一面に広がって出土しました。また、建物の壁も焼けて赤くなっていました。このようなことから、この建物は焼失した住居と考えられます。



竪穴建物跡(SB39)焼土・炭化材出土状況

・中世の火葬施設の発見

調査区の南端では火葬施設跡が3基みつけられました。いずれも内部から焼けた土や炭化した木材、焼けた人骨が出土しています。

また、3基からは銭貨が合計10枚出土していて、そのうちの1枚は「こうぶつほう洪武通宝」(初鑄1368年)と判別することができました。このことから、この火葬施設は室町時代以降に作られたものと考えられます。



火葬施設跡出土 洪武通宝

(問い合わせ先)
 長野県埋蔵文化財センター
 担当：廣田/関/丸山/小出
 電話：026-293-5926
 メール：maibun@naganobunka.or.jp
 HP：https://naganomaibun.or.jp